

詠むことで思考が高まる 日々と感性を豊かにする 俳句の魅力と奥深さ

県内俳句を導いた岩井鬼童先生

「俳句は見たままを詠んでも報告文にしなければならぬ。同じものを見ても、人それぞれ感じることは違う。自分の主観を少し入れることで、詩がぐっと面白くなる。」

今年で90歳、俳句歴62年の岩井鬼童先生。退職後、約30年にわたり田川、直方、宗像など県内6か所で句会を主宰し指導

してきました。「さまざまな人の作品に触れることが視野を広げる」と考え、20年前にそれぞれの句会の作品を束ね「鬼杉」を創刊。句会混合で、九州内のいたる所へマイクロバスを走らせ、吟行したといえます。高齢のため現在主宰する句会は自宅での「鬼杉赤池俳句教室」のみとなりましたが、その感性は磨き続けられています。鬼童先生の添削例を一部ご紹介します。



→2月17日の鬼杉赤池俳句教室では咲笑さんの妹・芽生さん(小1)も含め8人が参加し和やかに行われました。

言葉の意味を深く考え多くを語らず余韻を残す

雪解けて音聞こえけり水車小屋

動き出す

「鬼童先生添削」たとえば「雨」は降るものなので、俳句では「雨降る」とは言いません。同様に「音」もそれだけで聞こえる音だと分かるので「聞こえ」は不要でしょう。「音動き出す」とすると、何だろうか?と読む人の興味をそそります。最後に「水車小屋」がくることで、種明かしのような面白さが出ますね。



↑鬼童先生が作成・出版した句集の一部。当時の時代や人を映した貴重な資料として残っています。

言葉や語順の工夫でムダを削ぎ、主観を少し入れる

彩りの花屋をあふれ 風光る

ふる

「鬼童先生添削」この句であふれているのは「彩り」ですが「彩り」と「あふれ」の間に「花屋」が入っていることで、句が間伸びしてしまっています。語順を入れ替え「彩りのあふれる花屋」とすると、句が締まるでしょう。ただ状況説明だけになっているので、メリハリを効かせたり余韻を持たせる工夫が必要。



人生を豊かにする俳句

町内では岩井鬼童先生の「鬼杉赤池俳句教室」のほか、池田一步先生が指導する「方城句会」「赤池隣保館句会」、高齢者大学での俳句教室など、俳句に親しむ場所があります。

70年近く俳句に携わり、指導者として多くの人を見てきた池田一步先生は「俳句が頭と体を支え、長寿に結びつく」と言っ



↑方城、赤池で俳句を指導して25年になる池田一步先生(赤池)。出会いと感動を生み、心の支えとなる身近な俳句を広く伝え続けています。

ても過言では無い」と話します。また、俳句を詠んでいる人の誰もが「俳句が思考を高め、考えや視野が格段に広がる」と口をそろえます。人生を豊かにする俳句——句会が心のよりどころとして欠かせない存在になっている人も多いようです。

俳句の楽しみは作るだけではない

俳句に関する本は多く、ふくちのちでも貸し出していますが、やはり独学では限界があります。仲間の句に刺激を受け、講評や添削を体験することも、俳句の面白みの一つではないでしょうか。まずは筆記用具とノート、歳時記を持って、町内の句会を見学してみませんか。

→季語が掲載された「歳時記」は図書館でも借りることが可能。電子辞書も便利です。

その数なんと五千以上 季語

1 季語の持つ本来の意味・情感を理解して用いる

俳句での季語は非常に重要で、単なる言葉として一句にひとつ入っていればよいというものではありません。季語を他の言葉に変えても通用する句は弱いです。

2 使われて生まれる季語時代によって変化

季語の数は5千を超えるといわれますが、時代の流れで使われなくなった季語もあります。逆に「花粉症」など新しい季語も生まれているので、季語を集めた本「歳時記」をチェックしましょう。

3 句を適切に伝えるため言葉を吟味し使い分け

同じ夏の雨でも「五月雨」「夕立」などの言葉があります。また季語でなくても「泣く」「鳴く」「哭く」など同じ音でも意味が異なるので、言葉を吟味しましょう。

人生の楽しみみの一つに 俳句を詠む

句会に参加する

※ぜひ見学にお越しください。

【方城句会】池田一步先生

日時 隔週火曜日(月2回)12時30分

場所 ほのぼの館

【赤池隣保館句会】池田一步先生

日時 毎週金曜日13時

場所 赤池隣保館

【鬼杉赤池俳句教室】岩井鬼童先生

日時 第1金曜日・第3土曜日13時

場所 岩井鬼童さん自宅(赤池)



→ほのぼの館で行われている方城句会。5~11月は高齢者大学の俳句教室にあわせ方城分館で開催。



←昨年までの金田公民館での俳句教室を、岩井鬼童さん宅で開催。詳細は広報係へお尋ねください。